

## 主 文

本件上告を棄却する。

当審における訴訟費用は被告人の負担とする。

## 理 由

弁護人小林武夫の上告趣意（後記）中第一点は憲法違反を云為するけれども、その実質は被告人の窃取した財物が機械ではなく、その廃品たる屑鉄にすぎないとい  
うのであり、第二点は単なる事実誤認の主張であつて、いずれも刑訴四〇五条の上  
告理由に当たらない。なお、第一審判決挙示の証拠を見ると、十分に補強証拠があり、  
被告人の自白だけで有罪としたものではないこと明らかである。また記録を精査し  
ても同四一一条を適用すべきものとは認められない。

よつて同四一四条三八六条一項三号、一八一条により主文のとおり決定する。

この決定は、裁判官全員一致の意見である。

昭和二七年五月二六日

## 最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	霜	山	精	一
裁判官	栗	山		茂
裁判官	藤	田	八	郎
裁判官	谷	村	唯	一 郎

裁判官小谷勝重は出張につき署名押印することができない。

裁判長裁判官	霜	山	精	一
--------	---	---	---	---